

火山カタログ作成当時の資料がもとになっている)をもとに検討した。

- ・ランク付けまで含め2年がデッドライン。活火山の選定を来年2月くらいには決めたい。1年遅れとなったが、集中的に行う。
- ・4月26～27日に泊りがけで会合を計画中。
- ・次のような問題点が明らかになっている。
 - (1) 海底火山の定義：海底火山の深さ等
 - (2) どこまで1つの火山とするか：地元の認識、単成火山群、巨大カルデラ噴火、防災計画との関連、観測体制
- ・ランク分けの方針は今後の課題。
- ・一例として、鍋島岳のケースを検討した。

火山噴火予知連絡会幹事会 議事録

日 時：平成13年2月5日(月)12時15分～13時00分

場 所：気象庁第2会議室

出席者：幹 事：井田、藤井(敏)、渡辺、藤井(直)、須田、竹内

オブザーバー：吉田、早川(文部科学省)、中辻(内閣府)

事務局：内池、小宮、川津、山里、佐久間

1. 部会及びWGについて

1) 有珠山部会及び伊豆部会についての議論

- ・部会の扱いについて。以前の幹事会で、部会は臨機応変に設置、廃止していく、広域な地域を対象とする部会は設置しないという方針を決めた。
- ・有珠山部会は役目を終えたので廃止でいいのではないかと、伊豆部会は三宅島部会とすべきである、という意見が出た。
- ・気象庁側から、有珠山部会については、まだ防災対応が行われていること、伊豆部会について、今、名称を変更するメリットがないことから、いずれも、現状維持としたいとの希望。
- ・伊豆部会に限り、現状のままとし、実質上三宅島部会のつもりで運営していく方針を了承。
- ・有珠山部会については、結論が出ず、取扱いについて、再度、事務局で検討することとなった。

2) 活火山WGについて

- ・1月25日、宇井委員をはじめ小グループで会合を持った。1万年以内噴火火山を対象とするということで、方針として2年でランクも含んだ火山リストを作成するというにしたい。本日午前にもWGを開催し、議論を進めた。この後の本会議で宇井委員から説明いただく。活火山の範囲などについて議論している。

3) 富士山について

- ・昨年10～11月、低周波数地震が多発した。12月27日の勉強会で富士山についても議論した。火山噴火予知連絡会として何らかの対応をした方がいいのではという意見が出た。
- ・火山噴火予知連絡会の対応を考えるWGを設置することについて議論したが、WGの目的がまだ明確でない、今回は欠席幹事が多い、等の理由により今回は見送ることになった。しかし、前向きに検討する、議論を進めるということで合意した。

2. 運営要綱の改正

省庁再編に伴い、委員・幹事の変更を行った。4月に独立行政法人化される機関についてはその際にも見直される。

3. その他

今年度の補正予算で気象庁は、危険な場所での観測のための無人ヘリ、ペネトレータ等の整備を行った。なお、各委員との意思疎通を図るため、TV会議システムを各幹事や主な委員のところに設置したいと考えている。具体的に個別に相談させていただく。

火山噴火予知研究協議会で、緊急時の観測体制の構築について覚え書きが紹介された。

第88回火山噴火予知連絡会 議事録

日 時：平成13年2月5日(月)13時00分～18時45分

場 所：気象庁第1会議室

出席者：会 長：井田

委 員：宇井、野津、渡辺、歌田、鎌山、平林、藤井(直)、清水、布村、須田、須藤(茂)、村上(代理：地理院)、植田、岡田(義)、内池、竹内、中禮(代理：気象研)、望月

臨時委員：石井、武尾、土井、勝井、大島、小山、津久井、荒牧、中村

名誉顧問：下鶴

オブザーバー：森(北大理)、関、黒沢(内閣官房)、吉田、早川(文科省)、中辻(内閣府)、宇都、篠原(地調)、

佐々木、大瀧、小荒井、松尾(地理院)、加藤(海保)、鶴川、大倉(防災科研)、

廣田、福井、山本(哲)、坂井、藤原(気象研)、角村(地磁気観)、浦塚(通総研)、宇平(海洋科学技術セ)、

杉村(消防庁)、高橋、斎藤(岩手県)、野口、塚原、宮崎(東京都)、佐久間(三宅村)、岩田(静岡県)、

細田(山梨県)、前田(仙台管区気象台)、酒井、小林(盛岡地方気象台)、高橋、稲葉(福島地方気象台)、

小久保(東京管区気象台)、三村(甲府地方気象台)、柿下(静岡地方気象台)、田崎(三宅島測候所)

事務局：山本(孝)、小宮、山里、佐久間、西脇、渦山、濱田、横田、川津、三上、小出